



## 3-4 目標設定

～手段が目的化しないように～

**キーワード**

・アウトカム目標

・アウトプット目標

・数値目標

・指標

### ●このテーマで目指すゴール

- ・アウトカム目標を理解できる
- ・施策のアウトカム目標を吟味できる
- ・具体的なアウトカム目標を提案できる

### 患者さんからの質問

県の協議会の委員をしています。会長から、「これからは計画のアウトカム評価をしていきたい」とのコメントがありました。計画の目標策定の際の留意点がありますか。

### ●目標とは

施策や活動には狙いがあります。例えば、相談支援活動の場合は、「患者の悩みの軽減」でしょう。緩和ケアの推進策の場合は、例えば「患者の苦痛の軽減」と設定されるでしょう。これを達成する可能性を高めるには、目標として設定しておくことが有効と考えられます。登山をする場合（散歩自体が目的の場合は別ですが）、「山を登って行こう」という漠然とした意識だけでなく、また、「今日は4時間半だけ歩こう」といった自分の行動に関する目標だけでなく、「午後3時半までには5合目の山小屋に着こう」というように、到達点に関する目標を立てておくのがよいでしょう。

目標を立てる際、本書3-3「ロジックモデル」で見たロジックモデル上のどこに関して目標を立てるかが重要です。大切なポイントは、アウトプット（結果）のみならず、アウトカム（成果）に関しての目標を設定することです。このアドボカシーカレッジでは、アウトプットとアウトカムの違いを何度も説明していますが、ここでも、簡単におさらいしておきましょう。

「アウトプット」は、「施策や活動の主体側に起きること」です。「アウトカム」は、「活動の結果として働きかけた対象側に起こる変化」です。政策が目的に有効であったかどうかは、アウトカムを見なければ分かりませんし、そのためにはアウトカムに関して目標を決めておくことが大切となります。また、本書3-5「指標設定」で説明するように、アウトカム目標に関する「モノサシと目盛り」となる「指標と数値目標」も決めておく必要があります。

## ●アウトカム目標の実際

では、アウトカム目標の設定の実際を、図 1 に沿って見ていきましょう。緩和ケアの推進策の一つとして、医療従事者への緩和ケア研修を行う場合を想定しています。アウトプット目標は「緩和ケア研修を開催する」です。アウトカム目標は、「医療提供者がより適切な緩和ケアを提供する」「患者の苦痛が減少する」などとなります。アウトプットの指標は「開催回数と受講者数」とし、数値目標は「開催回数 10 回、受講者計 300 人」といったように設定できます。アウトカムの指標は、例えば「患者が痛みを自覚している率」とし、数値目標は「〇%から〇%に減少させる」などとすることがあります。この数値は現状値を踏まえたうえで妥当と思われるラインを設定することになります。

行政や医療提供者が「予定どおり 10 回の開催を行って予算も消化し、予定以上の 320 人の受講者を得ましたので、この施策の目標は達成されました」と発表しても、患者アドボケートならば、「で、それが何の役に立ったの。それで、肝心の患者さんの苦痛は減ったの」と尋ねなければなりません。

図 2 は、多くの医療分野で行われている「患者や家族の相談支援」という施策についての例です。アウトプット目標は「相談実施体制を整備する」です。アウトカム目標は「必要な患者・家族に対し、相談が実施される」「患者・家族の悩みが軽減される」などとなります。例えば、アウトプットの指標は、「設置カ所と配置人数」とし、数値目標は「3 カ所、一カ所に 3 人ずつ合計 9 人」などと設定できます。アウトカムの指標は、「相談を受けた人数」「悩みが解消された人数」「悩みを抱えている患者・家族の率の低下」などが考えられます。

行政や医療提供者が「予定どおり 3 カ所を開設し、9 人を配置し、施策目標を達成しました」と説明するのを聞くと、患者アドボケートは、「患者さんは来場したの」「役に立つ相談が提供されたの」「問題は解決して悩みが解消したの」と聞きたくなるでしょう。あるいは、「うちの患者団体に相談に来る人はその窓口を知らない（知っている）」「その窓口を利用した人で役に立たなかった（役に立った）という人が多い」などと、自分たちがもっているアウトカムに関連する情報とつなげて検討することもできます。こうしたことを吟味するためには、アウトカム指標を計測しておくことが欠かせません。

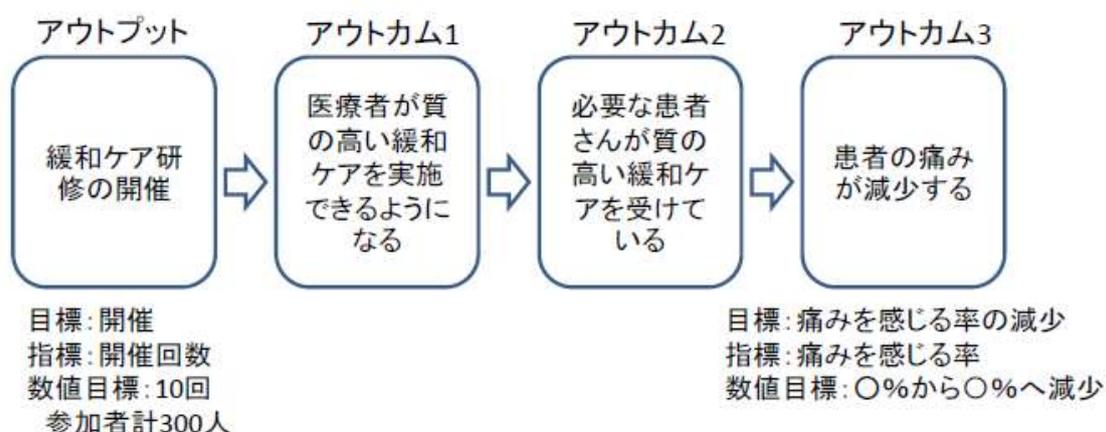
アウトプット指標だけに着目すると、アウトカムに効果がないにも関わらず、アウトプットを増やすための資源（ヒトやおカネ）が無駄に使われる可能性もあります。一般にアウトプットは計測しやすく、アウトカムはそれが難しい場合があるので、行政は後回しにしがちです。完璧でなくても、できる範囲でアウトカムを計測できるようにしていくことが大切です。

## ●アウトカム目標を実際に立ててみよう

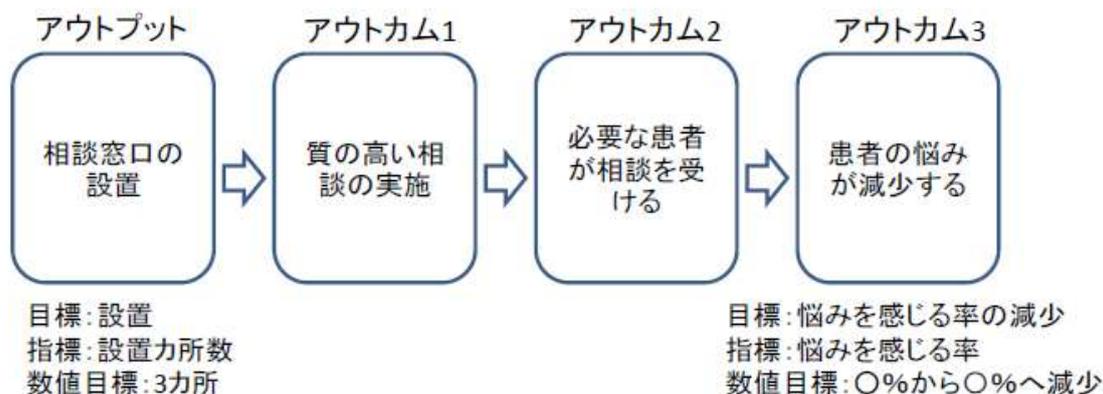
行政はアウトプット目標だけを設定しがちなので、患者アドボケートは患者の視点により近いアウトカム目標が設定されているかをチェックする役割があります。医療の計画や

施策を検討する審議会や協議会などの委員になった場合はもちろんですし、患者団体として地域の施策の目標設定のあり方に関心を抱き、他の地域の好事例なども参考にしつつ、具体的な提案をすることも大切でしょう。目標設定の際の指標設定の仕方については、本書3-5「指標設定」で説明します。

<図1>緩和ケア対策のアウトプット目標とアウトカム目標（例）



<図2>相談支援活動のアウトプット目標とアウトカム目標（例）



◇ さらに詳しく知りたい方のために

- ・ 竜慶昭、佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』多賀出版、2004年
- ・ ロッシ、ピーター・H.ほか『プログラム評価の理論と方法—システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社、2005年
- ・ パットン、マイケル・Q『実用重視の事業評価入門』清水弘文堂書房、2001年